

# カンピロバクター食中毒の発生を低減させるために

～正しい理解でおいしく食べる～

【東京都食品安全情報評価委員会報告書概要】

近年、カンピロバクターによる食中毒は他の病原菌によるものと比較して増加傾向にあり、発生原因として鶏肉の関与が多く指摘されている。

東京都食品安全情報評価委員会は、鶏肉が都民の食生活で日常的に利用されている食材であることから、カンピロバクター食中毒における鶏肉の関与の実態を確認し、早急にカンピロバクター食中毒の低減を図ることが必要と判断し、検討課題に選定した。

本報告書は、現時点で最も現実的かつ効果的なカンピロバクター食中毒対策として、感染を引き起こさない鶏肉の食べ方及び取扱い方法の周知をあげ、リスクコミュニケーションを積極的に活用してカンピロバクター食中毒の低減を図ろうとする、食の安全確保への新たな方向性を示したものである。

## 【検討内容】

### 1 カンピロバクター及びその食中毒の特徴

カンピロバクターは、動物の消化管内に広く保菌されている。通常環境では食品中で増殖しにくく、加熱や乾燥に比較的弱い。他の食中毒と比較して極めて少ない菌量で発症する。

主な食中毒症状は下痢、腹痛、発熱等で、予後は比較的良好である。

### 2 カンピロバクター食中毒の実態

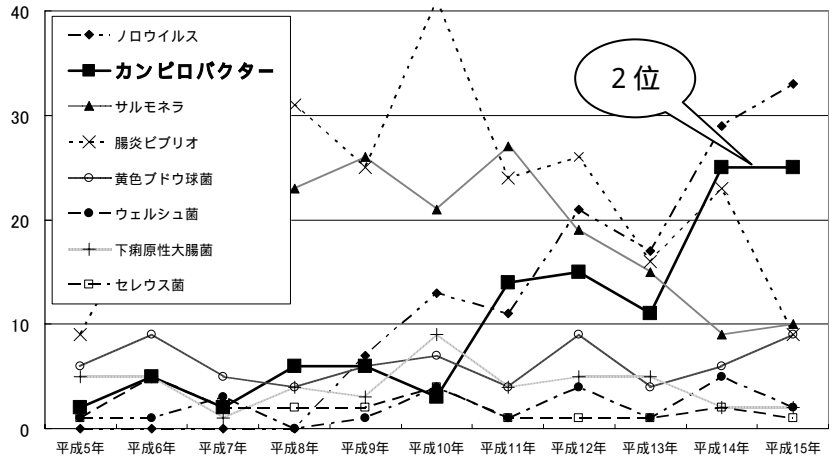
- (1) 都内における発生件数は近年増加傾向にあり、平成14年及び15年には病原物質別発生件数で2位を占めている。

- (2) 都内で報告された事例(平成15年)の多くで鶏肉の関与が疑われており、

主に、生や生に近い状態の鶏肉を食べたこと、あるいは鶏肉に付着していた菌を他の食材を介して摂取したことが、食中毒発生につながったと考えられている。

- (3) 都内では、飲食店で発生した事例が多く、発生規模は小さい。また、近年、学校の調理実習での食事が原因となっている事例が目立つ。

主な微生物による食中毒の発生件数の推移(東京都)



都内で発生したカンピロバクター食中毒とその原因食品(疑いを含む)

原因食品	鶏肉	その他	計
特定	4	1	5
推定	15	5	20

【平成15年】

### 3 食品とカンピロバクター（課題）

- (1) 鶏肉からカンピロバクターが検出されることは、従来から知られている。陽性率についてはさまざまな調査報告があり、定まった評価がされていないが、これまでの調査を総合すると、比較的高率であることが推察される。
- (2) カンピロバクター陽性率には、検査方法の違いが影響している可能性がある。本菌がごく少量の菌により食中毒を起こすことを考慮すると、従来よりも感度の高い検査方法の検討及び標準化が必要である。
- (3) 鶏の腸管内には高い割合でカンピロバクターが生息している。生産段階で鶏肉への本菌の付着を防ぐ方法が模索されているが、現在のところ効果的な方法は提示されていない。

### 4 カンピロバクター食中毒防止対策の方向性と具体的検討

これまでの一般的な食中毒予防の呼びかけにもかかわらず、減少しないカンピロバクター食中毒を低減させるためには、単なる注意喚起にとどまらず、都民の目線に立った、より具体的な情報を提供する必要がある。

そこで、日常生活に即した情報を提供するために、以下のような検討を行った。なお、Q & Aの作成にあたっては、都民委員の知りたいことを参考にし、わかりやすさを重視した。

料理としての価値を失わず、かつ安心して食べられる鶏肉の加熱条件  
菌を他の食材に広げないための、手指や調理器具等の洗浄条件

カンピロバクター及びその食中毒に関するQ & Aの作成

#### カンピロバクター食中毒を低減させるために（提言骨子）

- 1 都民自らが積極的にカンピロバクター食中毒を予防できるよう、以下のポイントについて重点的に情報提供を行うこと。
  - (1) 適切な加熱調理方法
  - (2) 鶏肉を取り扱った調理器具や手指からの二次汚染防止対策
  - (3) 生または生に近い鶏肉を食べることによる食中毒発生リスクの周知
- 2 たとえ本菌が鶏肉に付着していても、適切な調理によりカンピロバクター食中毒は防止することが可能である。よって、都民が必要以上に不安を感じることがないように、また、正しい理解に基づく適切な対応をとることができるように、以下の点に留意してリスクコミュニケーションを行うこと。
  - (1) 視覚的な要素を重視した、分かりやすく具体的な情報提供
  - (2) カンピロバクターだけでなく、他の病原菌等による食中毒防止への配慮
  - (3) 効果の検証実施
- 3 生産段階における鶏肉のカンピロバクター汚染制御や適正な検査方法の開発等については、全国的な対応の必要があるため、国や他の自治体への働きかけを行うなど、取組みを進めること。